

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示するだけでなく職員会議やユニット会議にて読み合わせを行い、各自意思の統一を図っている。	法人理念、各事業所の特徴、年度目標については事務所に掲示すると共に、年度初めに読み合わせを行い、共有と実践に繋げている。新入職員に対してはオリエンテーションの場で読み合わせを行い徹底を図っている。年度目標については職員がよく理解し日々の業務に取り組んでおり、ユニット会議等でその都度確認し合い目標達成に向けた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	どんど焼きに参加させていただいたり地区のお祭りとして「おしし」を踊りに来て下さっている。	隣接する特別養護老人ホームと共に区費を納め、地域の一員として活動している。開設以来、様々なボランティアの受け入れや地域との交流活動に力を入れ取り組んで来たが新型コロナウイルスの影響を受けすべての活動が中止の状態に追い込まれ残念な状況が続いている。地域の皆様との関わりの大切さを感じる1年となったという。新型コロナ収束後には、また、積極的に地域との交流活動を行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めていただけるよう、運営推進会議を通して情報を発信し共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において現状報告や参加者よりご意見アドバイスをいただき活動に繋がられるように取り組んでいる。	区長、前区長、区長代理、民生児童委員、市高齢者福祉課職員、利用者代表、家族代表、ホーム関係者の出席で2か月に1回開催している。現在はコロナの影響を受け書面での開催となり参加メンバーに対し利用者状況、活動、出来事報告、事故報告、活動予定、特記事項等を書面にてお知らせしご意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回千曲市から安心介護相談員が来所している。その時にこちらの現状等を報告している。また利用者様の区分変更時等、市町村の担当者に相談している。	地域包括支援センターとはグループホームの利用状況、利用料金等様々な事柄について相談している。利用者も月1回の市の安心介護相談員の来訪を楽しみにしているが、新型コロナの影響を受け現在は見送りとなっており残念な状況が続いている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行い職員が対応しているが、立ち会う家族も数名おり調査員と話をし現状を確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議を通し勉強会を行なっている。玄関については周りが田畑の為施錠している。気分転換の為、散歩などで外を歩いていただく時は、職員が同行している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。敷地内も広く安全確保のため玄関は施錠されている。外出傾向の強い利用者が数名いるが職員が付き添い、ホームの敷地内を話をしながら散歩し対応している。元気な利用者も多いので日々の生活の中で行動抑制の声掛けをしないよう心掛け、広いホーム内を自由に動いていただくことを基本としており、利用者の行動パターンを把握しユニット間の職員同士連携を取り合い所在確認を行い安全の確保に繋げている。転倒危惧のある方が数名おり、夜間のみ人感センサーを使用している。2ヶ月に1回開かれる法人の虐待防止・身体拘束適正化委員会に担当職員が出席し、一人ひとりの職員にその内容を伝えることで意識を高め拘束のない支援に取り組んでいる。	

地域密着型認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会を行い虐待についての知識を深めている。日頃、利用者様に対する言葉遣いにも注意をし合い虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明時に疑問点等を伺いながら説明している。不明な点は随時きいていただくよう促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また面会時には日頃の様子を伝え、ご意見を伺い改善するよう話し合いを行なっている。	ほとんどの利用者が意思表示の出来る状況であり、その都度問い掛けを行い意見や要望を受け止めるようにしている。家族の面会は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いておりホームでの様子は電話とお便り「森の里だより」で知らせている。また、新たに入居された利用者については3日～1週間毎に、細かな状況を家族に報告し、安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ユニット会議・業務改善係り会等で意見や提案を聞いて反映させている。	月1回、全体職員会議とユニット会議を開き、全体職員会議では各委員会報告、勉強会、活動計画の確認を行い、ユニット会議では利用者一人ひとりについてケアカンファレンス等を行い運営の向上に繋げている。年1回10月に自己管理シートを用い自己評価を行い、施設長との面談を行い、意見、要望等、話し合いの場を設けている。職員の意見箱も設置され、他職員の良いこと、良いところの2項目を提出し、共有と改善に取り組み職員のスキルアップにも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員の意見・要望の聞き取りをし個人事情の把握に努め、人事考課へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加している。また資格希望者への支援も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加しネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活歴等の情報・習慣等を伺い入所後の生活が自分らしく安全に過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子・援助してきたこと・困っている事等を聞き取り、ご家族に経過報告をし家族の想いを支援に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況やケアマネージャーからの情報から必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、出来る事、得意な事、大切にされている事を見つけそれらを行なう事によって自信を持って生活していただき、支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家人に近況を知らせている。また状態の変化等あった場合には電話連絡をし状況の説明をしている。受診や内服薬を届ける為来所していただけるのでその時にも利用者様の情報を伝えることが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為外出を制限しているなかで、家人に定期的に担当から近況報告をしたり写真等を便りにして郵送している。	新型コロナの影響を受け、友人、知人等の来訪も自粛状態が続いており収束後には再開予定である。買い物に出掛けることも出来ない状況が続いており、衣類等の希望の物は職員が聞き、買い物をしている。そのような中、家族と電話で連絡を取り合っている方もいる。また、年末には職員がお手伝いをし家族あてに手造り年賀状を出したという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席を工夫したりレク等で気の合う方と隣になるようにセッティングをする。また職員が間に入り交流しやすいよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで事業所と連絡調整を行い、ご利用者様、ご家族共不安にならないように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの希望や意向を確認し職員間で情報を確認しながら極力サービスに取り組むようにしている。	介助をする際にはその都度、前後の行動や表情等を確認しながら意向に沿えるよう取り組んでいる。食べたいものの希望を聞き、入浴時の着替えは一緒に選んだりもしている。日々の気づいた言動等はケース記録に残し、職員間で情報を共有し、また、出勤時にも確認し日々の支援に取り組んでいる。更に、体調面やいつも言わないことなど、特別なことがあれば申し送り確認しあうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の生活やアセスメントの中から昔の思い出話や生活環境を把握し利用者様が暮らしやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや個人記録により現状の把握を行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や通常の勤務において職員間で変化等を確認しながらカンファレンスを行い、計画を作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し物品の管理、排泄状況の管理、生活一般の管理を行い報告している。居室担当と管理者がモニタリングを行い、ユニット会議の席上、他の職員の意見も確認しながら家族の希望も電話や来訪時に伺い、基本的には6ヶ月に1回、計画作成を行っている。また、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者の希望に沿った介護に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、介護日誌、ユニット連絡ノートを使用しスタッフ同士で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご家族の状況を考慮し受診の付き添い、買い物の支援、ネット販売の手続き等ニーズに添って対応している。		

地域密着型認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方に情報をいただいたり、より多くのボランティアに來所いただけるよう働きかけている。また地域の行事に参加し交流させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた病院へ受診していただいている。かかりつけ医を持たない方は、近隣の往診可能な医師を紹介している。	入居時に医療機関についての希望を聞いているが、ほとんどの利用者は入居前からのかかりつけ医を利用しており基本的に家族の受診対応となっている。ADLの状況等は医療機関に連絡をし、特別な状況の時には職員も同行するようにしている。合わせて週3日勤務する看護師と隣接の特別養護老人ホームの看護師が連携を取り合い利用者の健康管理に努めている。歯科については必要に応じ訪問歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが週に3日間看護師が勤務している。勤務日以外でも電話にて連絡を密に取り急変があった時は指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時には同席させていただき、本人・ご家族の今後についての希望を伺い相談させていただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し家族から同意を得ている。また看取り時にはご家族、主治医、訪問看護と連携し終末期のケアに取り組んでいる。	重度化や終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期に到った時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの場を持ち、看取り支援に取り組んでいる。開設以来3名の看取りを行い、お見送りは利用者も含め全員で行っている。新型コロナ禍の中、看取りについては個室を準備し、家族と共に最期の時を迎えられるよう体制を整え、家族より感謝の言葉をいただいている。看取りについての勉強会は施設長が講師となり職員会議で行い、チームとして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議やユニット会議でAEDの使用方法を訓練し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中・夜間を想定して行い職員が自主的に行動できるように訓練を行なっている。地区の区長さんや消防団の方にも協力をお願いしている。	今年度は6月と10月に内部での防災訓練を行った。火災想定避難訓練を行い、消防署へ連絡する係、消火器の場所確認をする係、初期消火をする係、避難誘導をする係と職員の役割分担を明確にし行動確認訓練を行い防災意識の向上に繋げている。合わせて夜間想定訓練では2名の職員で消防署への連絡、管理者への緊急連絡、車いすを使つての避難の確認等を行っている。備蓄として食料品、介護用品等が準備されている。地域との防災協定も結ばれ、当ホームが地区の避難場所にも指定されている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の特性を生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心掛けている。	職場における言葉遣いについての法人としての指針があり、「すみません」という反省の心、「ありがとう」という感謝の心を常に持ち、支援に取り組むようになっている。人生の先輩である利用者に対しては敬意を持ちながら利用者に合わせ親しみを込め、明るく方言も交えながら楽しい会話をするよう努めている。入室の際にはノックと「失礼します」との声掛けを忘れないようにしている。呼び掛けは基本的には苗字を「さん」付けでお呼びしている。同姓の方がいる場合は名前でお呼びしている。また、トイレ介助には特に気を配り、他の利用者にわからないようにトイレに誘導するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の場を設け想いを聞き出すよう努めている。日常生活の中で思いや気持ちを引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応ではなく、その方のペースに合わせて個々に食事の時間・場所を柔軟に対応している。外出・面会も極力希望にそえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師にきていただき、ご本人の希望にそった髪形にしている。外出時や入浴時の着替えは本人の希望に合わせた好みの衣類に着替えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と毎食の汁物やおやつを手作りしている。また希望の献立の昼食会や、行事食、郷土食も取り入れている。盛り付けや食器洗い等も一緒に行っている。	ほとんどの利用者が自力で食事が出来る状況である。職員と共に会話を楽しみながらの楽しい時間を過ごしている。元気な方も多く、下準備から後片付け、テーブル拭きまで積極的に参加されている。献立は隣接特別養護老人ホームの管理栄養士が立てたものを用い、出来るだけ食材の形を崩さないように調理し、汁物についてはホームで作り温かい物を提供するようにしている。「おやき」「こねつけ」「うす焼き」等のおやつは利用者と職員が楽しみながら共に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し摂取量が少ない方には補うようにしている。また嗜好にもそえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けをし必要に応じて支援している。口腔状態の把握にも努めている。		

地域密着型認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンを知り出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	ほとんどの利用者が一部介助という状態で、リハビリパンツとパットを使用している。気分を損ねないようパット交換を行うなど、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。入居前のパターンを家族に聞き、入居1ヶ月位で個人記録にパターンを纏め、スムーズな排泄支援に繋げている。排便促進を図るべく「ほうじ茶」「甘酒」「牛乳」等の水分摂取目標を1日1,000cc以上と定め取り組んでいる。また、排泄係がパットの大きさ等の検討を重ね、費用削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食分量や水分量に気を配りオリゴ糖・乳製品・甘酒等も使用し予防に努めている。必要に応じてご家族や主治医と相談し内服薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の体調、その日の気分が入りたくない日は別の日に入浴できるよう工夫している。	全利用者が何らかの介助を必要としている状況である。広く明るい浴室には3ヶ所の浴槽が備え付けられ開放感があり、気持ち良く入浴していただきコミュニケーションを図る場としても大切にしている。。基本的には週2回の入浴を行っているが、希望で3回入浴される方もいる。軽い入浴拒否の方も数名いるが、時間を変えたり人を変え対応している。入浴剤の使用に加え、季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節の風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様には、自由に好きな時に好みの場所で休んでいただいている。夜間はご利用者様が眠くなった時に休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケース記録に処方箋の内容を置き把握できるよう努めている。また内服薬に変更があった場合は状態の変化を個人記録に記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意な事や好きな事、したい事を見つけ生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候にもよるが、毎朝散歩をしていただいている。馴染みの場所や希望にそった場所等にも出掛けられるよう支援している。	外出時、自力歩行の方が半数、車いす使用の方が半数という状況である。新型コロナの影響を受け外出自粛が続いているが天気の良い日にはホームの広い敷地内を散歩し外の空気に触れるようにしている。合わせて広いホーム内も歩くようにしている。新型コロナ収束後には地域の小学校の運動会見学、例年実施している初詣から秋の紅葉見物までの外出を実施し、楽しむ予定である。	

地域密着型認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を預かり管理させていただいている方はいません。買い物や受診等で支払いが必要な場合は事業所で立て替えさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時はご家族、友人と電話で話せるよう支援している。また年賀状はご利用者様と一緒に作成し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは広く設けてありご利用者様が自由に行き来している。掲示物は季節を感じられるように気を配っている。	広い敷地を囲むように杏の木が植えられ、春には満開の杏の花が咲き誇り、散歩をしながらお花見を楽しんでいる。また、ホーム独自の畑もあり夏野菜の栽培にも勤しんでいる。ホーム内の共用スペースもゆったりと広く、玄関ロビーの他にテレビと応接セットが置かれた寛ぎの共有スペースがあり利用者の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が話しをしたり、景色を眺めたり、思い思いの場所で過ごされている。落ち着かない方は落ち着ける場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真等が置いてあったり、馴染みの家具や小物をお持ちいただき、ご利用者様が落ち着く居心地の良い雰囲気作りを心掛けている。	掃除が行き届き清潔感漂う各居室は十分な広さが確保され、洗面台とクローゼットが備えつけられ暮らし易い造りとなっている。持ち込み自由で、使い慣れた家具、椅子、テーブル、テレビ等で好きなようにレイアウトされている。また、壁には家族の写真や自分の制作した作品も飾られ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に応じてベット、タンスの配置を換え安全確保を図っている。トイレや浴室もわかるように張り紙をしている。ご利用者様によっては、居室に名前を貼りわかりやすいようにしている方もいる。		